

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立三滝中学校

校長 前田 匠

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

「三滝中学校コミュニティスクール運営協議会（以下、『運営協議会』という。）が発足し4年目となりました。

保護者・地域住民の方々が主体的に学校運営に参画し、学校教育活動の充実に向けて学校、保護者及び地域住民が協働して本校の「学校づくりビジョン」の実現を図るという運営協議会のねらいをふまえて本年度も活動してまいりました。

運営協議会のねらいの実現に向け、本校運営協議会では授業や行事の参観を通して生徒の実態を把握し協議するとともに、学校教育活動を地域に広める方策や生徒が地域で活動し関わりを深める方策等を話し合い、学校教育活動の深化に向けて取り組んでいます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

* 地域の教育力を生かした特色ある教育活動の実践事例

本年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、これまで実施してきた保護者や地域の方々と交流する取組の多くが中止となりました。

生徒が地域行事等へ参加する機会が減ってしまうことは、学校、地域の双方にとって残念なことでした。

そのようなこともあり、生徒は「できることは、しっかりと取り組んでいこう」という気持ちが強くなり、以下に報告する取組において熱心に活動することができました。



また、生徒会本部からも『地域の清掃活動に参加したい』など、自分たちにできることは何かを考え、運営協議会の場で提案することができました。

【一人暮らしの高齢者に色紙を贈る取組】

この取組は、長年継続され地域の方々からも大変喜ばれ、本校の特色ともいえる取組です。本年度は神前・川島両地区で取組まれました。

2・3年生の生徒が美術科、総合的な学習の時間、学活などの時間の

なかで、地域に住む一人暮らしの高齢者の皆さんを元気づけるために色紙を作製します。その作製した色紙に、校区の小学生が作った折り鶴を添えました。これまでは、生徒会福祉委員の生徒が地域の方々のお宅を訪問し届けていましたが、コロナ禍ということもあり福祉委員長等が地域の民生委員の方を通じて届ける形がとられました。



その後、色紙を手にした地域の高齢者の方から学校へお礼の電話も入りました。

本来この取組は、地域の介護・福祉施設や一人暮らしの高齢者の方々と実際に面談するなかで、高齢者の方々が喜ばれる姿を見た生徒たちの気持ちの高まりにつながるものです。また、生徒たちは満足感や充実感を得ることができ、自信にもつながる取組になっていることから、引き続き、取り組んでいきたいと考えます。

【漢字検定・英語検定の取組】

生徒の学ぶ意欲を持続させるために、本年度は漢字・英語両検定を年間2回ずつ計画しましたが、感染症の影響により年1回ずつの実施となりました。



いずれの機会にも多くの生徒が受検希望しており、生徒の意識の高さが感じられました。

この取組では、当日の試験監督をコミュニティスクールの委員さんなどに手伝っていただくとともに、申し込みの手続きや検定料の管理なども行っていただきました。

このような関係者の方々のバックアップにより継続できている取組となっています。

【川島子ども未来塾】

この取組は、夏季休業中に地域の小学生に対する学習支援の取組で、コミュニティスクール運営委員長を中心に企画・運営され、今回で5回目の開催を予定していました。地域の方や地元の学生さんたちに交じり中学生も参加し、小学生の学習の支援にあたるものです。

中学校では、本年度も参加希望者を募り、20名程の生徒から希望がありました。感染症の影響により中止となりました。

参加希望の中学生なかには、小学生の時に当時の中学生から教えてもらった経験のある者が多く、地域のなかでの人と人とのつながりにもなる取組であるため、次年度以降も継続していきたいものとなっています。

【地域子ども教室（三滝未来塾）】

本市の『地域子ども教室』の取組として昨年度から始まりました。コミュニティスクール運営委員長を中心に、地域の方に講師をお願いしています。

講師の人数等のこともあり、毎週1回、対象生徒を原則3年生としています。本年度は、コロナ禍により教室の開講が10月からと遅くなってしまったこともあり、参加生徒は各回数名という状況でした。ただ、参加する生徒の姿からは、講師の方とのやり取りだけでなく、生徒同士で教え合う姿も見られ、とてもよい雰囲気でした。

今後、学習支援の対象拡大等が課題となっています。



【認知症サポーター養成講座】

本年度も地域の民生委員の方々が中心となり、生徒の前で寸劇を交え、認知症について知る事、支援の在り方等考える場を提供しながら学ぶ時間を作っていただきました。

地域の方々が学校に入り、生徒へ授業をしていただく機会がないことから、集中して取り組む生徒の姿が多くありました。

次年度以降も引き続き来校いただき、学びの場を提供してもらいたいと考えます。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

新型コロナウイルス感染症の影響等により、本年度も限られた取組にはなりましたが、コミュニティスクール委員の皆さんからのご提案等により、多くの生徒が取組に参加することができました。

また、生徒会本部を中心に、『自分たちが地域に関われることは何か』を考え、運営協議会に提案できたことは、生徒の自信につながったものと考えます。

生徒が地域に出て地域の方々に期待され、活動を認められることを重ねていくなかで、生徒の取組の様子が変わってきています。充実感、満足感が生徒の笑顔や積極性になって表現されることが多くなってきたように感じます。

加えて、「学校だより」を地域自治会に回覧させていただくことも4年目となりました。ぜひ、組長会でも話題にさせていただき、地域のなかで生徒たちへの声かけにつなげていただけたら幸いです。これは、より開かれた学校をめざして今後も続けていきたい取組の一つです。

3 今後に向けて

学校は、子どもたちにとってさまざまな活動を通し、失敗や成功の体験を繰り返し、気づき学ぶ場です。だからこそ、安心して登校できる場にしていかなければなりません。

感染症の影響から今後の見通しが立ちにくい状況にありますが、引き続き、安心して学べる場を提供できるよう、いじめを許さない学校づくり、学校や地域で活動する中学生の姿を多くの人に周知するためのホームページの活用推進、さらには、より多くのゲストティーチャーによる授業や講演会の実施等に取り組んでいきたいと考えています。そして、より一層、地域、保護者、学校の連携を深めていきたいと考えます。